

パンタナル通信

南北米福地開発協会 会報 2005年7月1日発行 第22号

パラグアイ国、レダ開発地域からの写真と報告。



レダ便り（二〇〇五年六月五日）
レダはスイカの収穫期を迎えるました。毎食時、毎休憩時には、真っ赤で甘い大切
りのスイカをむさぼり食っています。なにしろスイカはたくさん採れます。一昨日
の金曜日に、金子先生と綿貫さんがフィラデルフィア経由でアスンションに行きました。綿貫さんは、六ヶ月間にわたり、水つくり、プール施設管理、発電機の運転
と整備、ボートや車両のメカニックなど、大切な作業を昼も夜もなく、ていねいに、
黙々と奉仕してくれました。今週中には北見市の家族のもとに帰りますが、日本で
自己研磨の学習や情報収集などをして、八月のお盆過ぎには日陽園に帰つて来たい
とのことです。その間、水つくりは、牛馬担当の大和田先生が、プールと発電機は
食事と鶏と電気工事担当の私が兼任することになりました。メカニックは、金子先
生が戻つてから一手に引き受けることになります。
今までスイカ、キュウリ、ほか、こつこつと自家消費用の野菜を作つてきたレダの
農園は面積も約1ヘクタールほどしかなく、規模としては、家庭菜園といったところでした。一方、現在中田先生が造成している農場は、約四ヘクタールあまりあつ
て、とても広々としています。

この中に畑、田、バナナ園、魚の養殖池などがまもなくできます。農場の入り口には研究室、資料室、倉庫等をすでに備え、実質的な総合試験場になります。場所は飛行場脇の植樹園の西側に隣接した土地です。現場では連日のよう、中田先生が休憩時にも帰らず、大型トラクターでスクレーバを引きながら、農場の造成工事を
しています。今は将来の農作業の効率化と水管理のため、外周に盛り土をして、幅
6mの農道を作つています。中田先生が土を盛ると、レベラーを使って土を均す必
要がないほどきれいな道路がどんどんできてゆきます。人と機械が完全に一体化し
ているのでしよう。耕作予定地の高い部分には乾いた茶色っぽい土が、低い
部分には湿つた黒い土があります。穀物、豆類、野菜、薬草ほか換金作物の研究が
計画されています。養殖池では、ピンターの畜養を研究する予定です。肉眼でも
魚の行動が観察できるよう、池の一つは透明な水にします。牧畜は、他にこれ
といった産業の育たなかつたチャコ地方で、從来確実に収入を得られる、唯一のと
いってもよい産業でした。レダでは将来の町づくりに備え、環境の変化に強い、多
様な社会的経済的基盤造りを目指します。

牧畜、農業、水産業（養殖）、軽工業（加工品）、サービス業、趣味産業ほか、地
道に研究開発しなくてはなりません。日本の技術と、南米の先駆者たちの鍛えぬか
れた経験から学び、前人未踏のパンタナルで将来に道を開くのが、私たちパイオ
ニアの使命です。何にせよ、現場で実際にやつてみなければ、本当のことは分かり
ません。日本の農業や園芸の教科書がここでそのまま使えるわけでもありません。
諸分野に未知の領域が広大な、ここチャコ地方です。どんな宝が埋もれている
か、大いに楽しみではありませんか。（小田文雄氏より）

各分野のボランティア要員募集



農業試験場



馬の管理



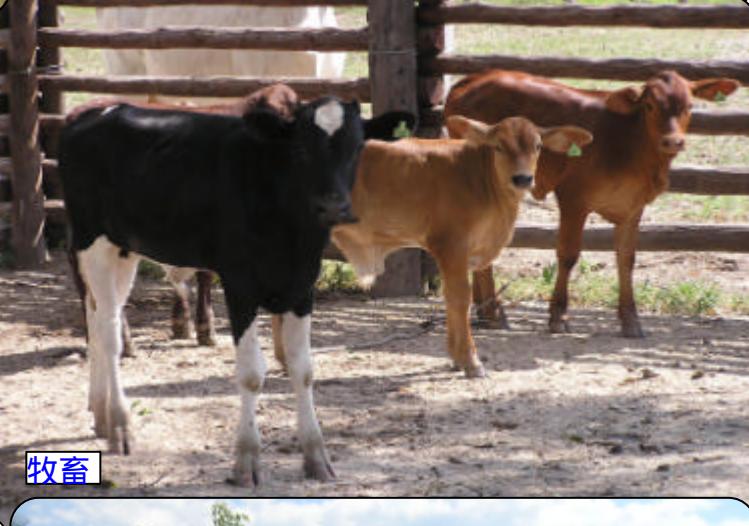
機械の管理



果樹園



希少生物保護



牧畜

電話
ビル四F
十五

南北米福地開発協会
事務局
〒二二二三〇〇〇一
神奈川県川崎市溝口
三十一
岩崎

七月の予定
七月四日
植樹チームパンタナールへ
七月十七日
ミナード
アドバンスセ
七月十六日—十八日



水管理をする綿貫氏

インディヒナの子供たちに教育の機会を！！

8月24日、国際青年協力ボランティア隊がパラグアイ個マジ村学校建設のため出発します。校舎も文具も十分ではありません。支援をお願いします。



支援金送り先
郵便口座 南北米福地開発協会事務局
代表 柴沼邦彦
10180-77680471
(送られる時、建設支援金のためと付記してください。)

マジ村の学校 (教室が一つで前後で生徒を2クラスに分けて授業。雨の日は教育が出来ない！)